

# 美唄市議会総務・文教常任委員会道内都市行政調査報告書

調査地 岩見沢市、砂川市、札幌市、栗山町、富良野市、旭川市

令和7年11月18日ないし11月20日の3日間にわたり、道内都市行政調査を行ったので、その概要を別紙のとおり報告します。

令和8年3月10日

美唄市議会議長 谷村知重様

美唄市議会総務・文教委員会

委員長 川上 美樹

副委員長 古賀 崇之

委員 伊原 潤司

// 吉岡 建二郎

// 山上 他美夫

// 森 明人

事務局 及川 てるみ

## 総務・文教常任委員会道内都市行政調査報告書

視察日程 令和7年11月18日(火) 砂川市 10:00～ 岩見沢市 13:30～  
令和7年11月19日(水) 札幌市 10:00～ 栗山町 13:30～  
令和7年11月20日(木) 富良野市 10:00～ 旭川市 13:50～

調査項目 砂川市、岩見沢市、富良野市、旭川市 庁舎の建替について  
札幌市 部活動の地域移行について  
栗山町 議員の学校について

### 今回の道内視察について

視察のテーマの選択については、委員が関心を持っている事項であるとともに、市において更なる取組の推進が必要であるにも関わらず、進捗が十分ではない課題について取り上げることとしました。

また、本年度は当初「道外研修」を予定していましたが、物価高騰下における旅費負担や、移動時間の有効活用等の意見があり、改めて検討を行い、道内の先例モデルを学ぶこととしました。特に庁舎の建替については人口規模や気候条件が類似している近隣市の事例を視察することで、より現実的に本市市政へ反映できると考えました。

### 砂川市、岩見沢市、富良野市、旭川市 庁舎の建替について

#### 【調査の目的】

本市庁舎は昭和50年に建築され、築50年が経過しており、各所の老朽化に加え、現行の耐震基準を満たしていないことなどが課題となっています。市では令和7年度中に庁舎の今後の在り方について方針を定める予定であることから、庁舎建替に関する課題解決に向けた議論や提言を行うための参考とすることを目的に実施しました。

#### 【調査地の状況】

##### －砂川市－

令和3年5月供用開始。旧庁舎は昭和45年建築。施設の老朽化、耐震性の不足、バリアフリー未対応、災害時における防災拠点機能の不足などを理由に改築。複合化

については庁舎規模や事業費の観点から 5 施設の集約を検討し、地域包括センターのみを集約。

主な特徴として、地中熱ヒートポンプによる空調、市民の憩いの場としてフリースペースや展望ラウンジ、お悔やみ窓口の設置、通常の 1.5 倍の耐震強度を確保している点が挙げられます。また、石狩川に面していることから水害対策として、1 階と上階で電力・通信系統を分離し、3 階に災害対策本部機能を配置、自家発電により最低 72 時間の活動が可能となっています。

#### －岩見沢市－

令和 4 年 1 月供用開始。旧庁舎は昭和 40 年建築。平成 28 年に庁内検討委員会を設置し検討を開始。施設の老朽化、耐震性不足、合併や窓口の多様化による施設の狭隘化、合併特例債の期限等を理由に改築。

市民利用の高い部署を 1 階に集約し、プライバシーに配慮した窓口設計、休憩スペースや市民ギャラリーとして利用できる多目的スペースを整備。地中熱や太陽光発電、高断熱仕様によりエネルギーロスを抑制するとともに、建物の形状を簡素化することで豪雪対策と建築コストの削減を図っています。

#### －富良野市－

令和 4 年 9 月、文化会館との複合施設として供用開始。旧庁舎は昭和 44 年、旧文化会館は昭和 46 年建築。平成 24 年に庁内検討委員会を設置し、平成 25 年に基金を設置。施設の老朽化や耐震性不足等を背景に、平成 27 年に複合施設としての建替方針を決定。

会議室やトイレ等を文化会館と共用することで床面積を抑えつつ、市民ロビーや子どもの遊び場を確保。音響に優れた大ホールと庁舎への音漏れを防止する設計、住民票や証明書などの交付もできる総合案内の設置、ペーパーレス化や電子決裁の導入による執務スペースの効率化を実現。3 階に災害対策本部機能を設置し、3 日分の水・電力等を確保しています。

#### －旭川市－

令和 5 年 11 月供用開始。旧庁舎は昭和 33 年建築。平成 9 年の庁舎の耐震化診断実施後に建替を見据えて基金を設置。その後、老朽化、狭隘化、庁舎機能の分散、耐震性不足等を背景に、平成 23 年に庁内検討委員会で改築方針を決定。平成 25 年の市民アンケートでは 74.6%が建替に賛成。方針決定から着工まで約 10 年をかけて市民理解の醸成を図っています。

市民が自由に利用できる展望ラウンジをはじめ、旭川家具の配置、市有林の木材活用による地場産業振興、地中熱システムの導入、多機能トイレと授乳室の設置などが特徴です。

#### 【調査のまとめ】

各市とも、築 50 年前後を目安に庁舎建替を検討しており、庁内での検討や市民合意形成に 5 年から 10 年の準備期間を要している点が共通しています。

特に、旭川市では、アンケート、タウンミーティング、ワークショップ、審議会設置など、多様な手法により市民の声を丁寧に反映しながら、基本計画から実施設計へと進めてきた経過が示されました。

本市においても、市民意見の聴取と市民合意に必要な期間を考慮すると、庁舎の建替に向けての検討を開始すべき時期に来ていると考えます。有利な財源の確保が前提となるものの、今後示される市の方針も踏まえ、基金の制定、検討委員会の設置、先進地視察、市民説明会やアンケートの実施などを進めるよう、市に提言していきたいと考えます。

また、市民会館や図書館についても老朽化が進んでいることから、人口減少を見据え、富良野市のような複合施設としての整備は理想的なモデルであり、本市にとって大いに参考となる事例であると考えます。

## 札幌市 部活動の地域移行について

#### 【調査の目的】

国が令和 5 年から進めてきた部活動の地域移行については、令和 8 年度以降、「部活動の地域展開」と名称を改め、6 年間で改革期間とする方向性が示されており、前期の 3 年間に於いて、休日における地域移行に確実に着手することとされています。

本市においては、現状、一部のスポーツ系部活動においてクラブチーム化や拠点校方式による部活動参加が行われているものの、文化系部活動については、いまだ明確な方向性が示されていない状況にあります。

昨年度は伊達市を視察しましたが、部活動の地域移行の取組方法は自治体によって様々であることから、引き続き、先進的な取組事例を調査・情報収集し、今後の本市の施策に対する適切な助言・提言を行うための参考とすることを目的に実施しました。

### 【調査地の状況】

札幌市では、スポーツ庁及び文化庁のガイドラインを踏まえ、平成31年に「札幌市立学校に係る部活動の方針」を策定（令和2年改定）、生徒の健全育成、教員の働き方改革、地域との協働を柱として、部活動の地域移行に向けた基盤整備を進めています。

また、外部有識者を含む「部活動の地域移行及び地域スポーツ・文化芸術活動の機会確保に向けた検討委員会」を設置し、制度設計や具体的な取組の検討が行われています。

一方で、札幌市のような人口規模の大きい都市においても、地域クラブ等の受け皿不足や指導者・予算の確保といった課題を抱えている状況にあります。

### 【調査のまとめ】

札幌市の取組を視察し、部活動の受け皿や指導員の確保については、大都市である札幌市においても困難な状況にあることから、地域移行の正解を見出すことの難しさを強く感じました。

今後、スポーツ系及び文化系の部活動を対象とした実態把握のためのモデル事業を実施していくとの説明があり、本市においても、可能であれば同様の取組を検討する余地があるのではないかと考えます。特に文化系部活動については、人口規模に違いはあるものの、札幌市のモデル事業が本市の参考となるか、引き続き注視していきたいと考えます。

札幌市においても多くの課題を抱える部活動の地域移行については、国の方針どおりに進めるのは容易ではないと感じており、今後も先進地視察等を重ね、課題解決の糸口を探っていく必要性を強く認識しました。

また、本件に関しては、指導者確保、各種負担金、送迎手段の確保等、多岐に渡る課題があります。部活動に取り組む生徒が不安なく活動に専念できるよう、移行方法について慎重に検討していく必要があり、議会としても、市職員やスポーツ協会、文化協会、文化連盟に所属する人材が部活動指導に関わることができないかなどについて、今後、市及び教育委員会と議論を深めていきたいと考えます。

## 栗山町 議員の学校について

### 【調査の目的】

地方議会における議員のなり手不足は全国的な課題となっており、本市においてはこれまで無投票の事例はないものの、今後の人口減を見据えた中長期的な検討が必要とされています。

また、栗山町は議会改革の先進地として知られており、議員のなり手不足対策に加え、議員の資質向上という観点からも、今後の本市議会の参考とすることを目的に実施しました。

### 【調査地の状況】

栗山町議会は、全国に先駆けて「議会基本条例」を制定するなど、議会改革の先進地として評価されています。一方で、議員のなり手不足という課題を抱えており、平成27年及び平成31年の町議会議員選挙では、2回連続で無投票となりました。

こうした状況を受け、なり手不足の要因を検証するため、「議員の報酬と定数に関する調査特別委員会」を設置し、2つの小委員会により調査を始めました。令和元年から令和4年までの4年間にわたり、計29回の会議や町民からの意見聴取を重ね、議会及び議員の役割や魅力を伝え、新たな議員を発掘・育成する取組として「議員の学校」の開校に至りました。

初回となる令和4年度は、約1か月のカリキュラムを編成し、町内外から19人の受講者が参加しました。その結果、4人が立候補（1人は由仁町議会議員選挙）し、全員が当選するという成果を上げています。

また、現職の議員が講師を務めることで、議員自身にとっても学び直しの機会となり、議員全体の資質向上にも寄与しているとのことでした。

現在は、令和7年度から令和8年度にかけて、1年間のカリキュラムによる「NEO議員の学校」を開校し、より実践的かつ継続的な人材育成に取り組んでいます。

### 【調査のまとめ】

栗山町議会では、議員のなり手不足という課題に対する問題意識が、議長から新人議員に至るまで、高い水準で浸透しており、そのことが議会活動や行動の迅速さに表れていると感じました。全議員が同じ方向を向き、目標に向けて主体的に取り組もうという意欲と姿勢は見習うべきであると感じました。

また、視察の際には、議長をはじめ4人の議員に対応いただきましたが、新人議員に進行を任せるなど、経験を積みながら育成していく考え方についても、学ぶべき

点であると考えます。

本市議会においても、新人議員が議会の基本を体系的に学べる研修の充実や、他市町村の議員と交流を通じて刺激を受ける機会を設けることが重要であると考えます。

人口減少により本市においても市議会議員の成り手不足が懸念されることから、次期選挙以降において市議会議員に立候補を志す市民を後押しするためにも、議会が主体となった立候補希望者のための勉強会や人材育成の取組を検討していく必要があると考えます。

以上、総務・文教常任委員会の道内都市行政調査報告といたします。

総務・文教常任委員会 委員長 川上 美樹

【砂川市視察】



●美唄市 川上委員長挨拶



●砂川市 職員による説明



●質疑の様子



●議会図書室を見学



●議場を見学



●議場にて、美唄市総務文教委員

**【岩見沢市視察】**



●岩見沢市 豊岡副議長挨拶



●美唄市 川上委員長挨拶



●岩見沢市 職員による説明



●会派控室を見学



●議場を見学



●議場にて、総務文教委員

【札幌市視察】



●札幌市 職員による説明



●質疑の様子



●質疑の様子



●質疑の様子



●質疑の様子

**【栗山町視察】**



●栗山町 鶴川議長挨拶



●栗山町 職員による説明



●説明中の様子



●説明中の様子



●栗山町 議員の学校出身の端議員が司会を担当



●議場にて、参加者全員で

## 【富良野市視察】



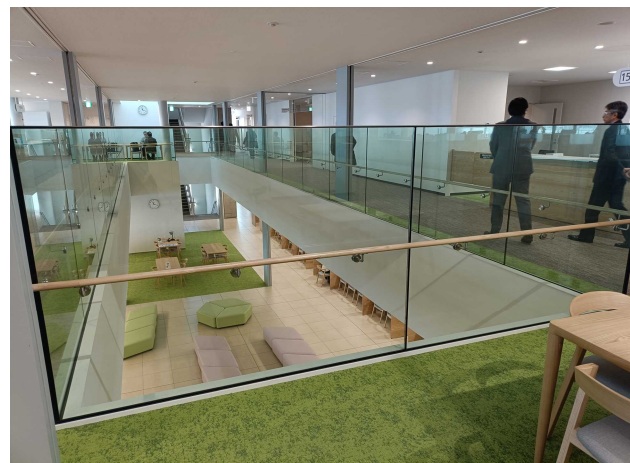
●富良野市 職員による説明



●議場を見学



●庁舎2階 市民ロビー 見学



●庁舎2階 市民ロビー 吹き抜け



●庁舎1階 市役所と文化会館共用の会議室



●文化会館ホールにて、総務文教委員

【旭川市視察】



●美唄市 川上委員長挨拶



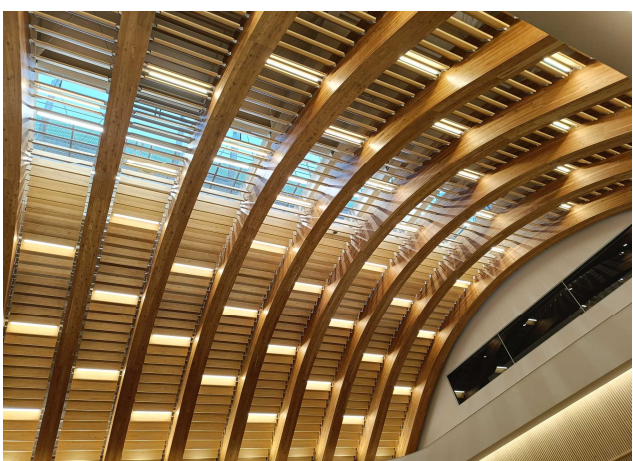
●旭川市 事務局長による挨拶



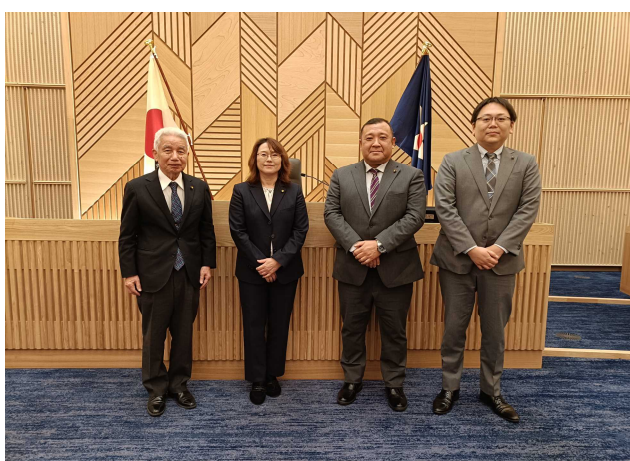
●旭川市 職員による説明



●議場を見学



●木材をふんだんに使った議場の天井



●議場にて、総務文教委員